

## 医療ツーリズムを志向した地方創生への取組

伊藤 公昭

本レポートは、三重銀行及び三重銀総研が、自身の保有するコーディネート機能を発揮しつつ、ドメインとする愛知県・三重県における地域資源の再評価や新結合を通して、新たな価値を創出する一つの事例として医療ツーリズムを志向した取組を紹介することで、地方創生の在り方を討究するものである。

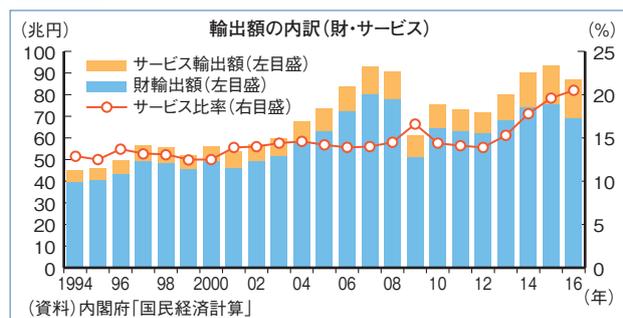
キーワード：地方創生、コーディネート、地域金融機関、医療ツーリズム、温泉、鍼灸、薬膳料理

### 1. 産業構造の変化

戦後の日本経済は、製造業（鉄鋼→機械→石油化学→輸送用機械→電気機械）を中心に卸売・小売・サービス業が発展を遂げ、世界2位（現在3位）の経済大国へと成長しました。しかし、1985年秋のプラザ合意以降長期化する円高と新興国の台頭により、輸出産業への依存度が年々高まっていた日本企業は大打撃を受け、日本経済も低迷を余儀無くされました。近年は、地政学的リスクや保護主義の台頭による政治リスクの高まりも相まって、今なお先行き不透明な状況が継続しています。また、将来を展望すると、人口減少・少子高齢化に伴う諸制度の破綻懸念など取り組むべき課題は、枚挙に暇がありません。

このような環境下、日本が豊かさを維持し発展していくためには、これまでの成長モデルの転換を図り、新たなモデルを構築する必要があります。

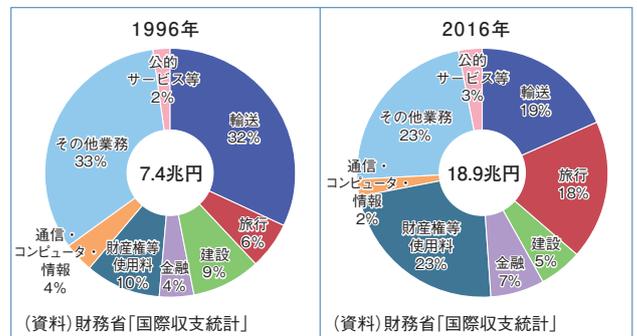
図表1 日本の財・サービス輸出額



図表1に示した通り、財・サービスの輸出額推移を見ると、リーマンショックによって落ち込

んだ輸出額は、2009年をボトムに回復傾向を保ちつつ、構造的にはサービス比率が年々増加傾向にあります。また、サービス受取額の項目別比率の推移では、旅行（6%→18%）が12ポイントと大きく増加しており、インバウンド消費の拡大が確認できます（図表2）。

図表2 サービス受取額の項目別比率

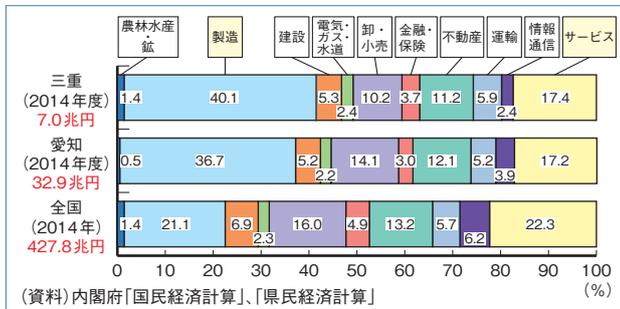


### 2. 愛知県・三重県の産業構造

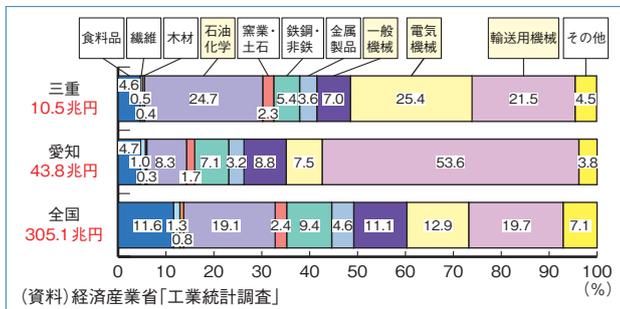
三重銀行グループがドメインとする愛知県・三重県の産業構造は、製造業比率の高さに特徴があります（図表3）。さらに、製造業の出荷額の業種別比率を図表4に示しましたが、輸送用機械、電気機械、一般機械、石油化学の出荷額の合計割合は、愛知県が78.2%、三重県が78.6%と全国の62.8%に比して、それぞれ15.4ポイント、15.8ポイント高くなっています。今後を展望すると、半導体についてはIoTの進展により増産が見込まれるものの、輸送用機械は、AIの急激な進歩による完全自動運転やシェアリング・エコノミーの普及による打撃が予想されます。また、石油化

学も、人口減少に伴う国内の石油製品需要の減少と海外での需要増加により新興国での製油所の新設など海外シフトは明らかです。因みに、1995年度から2015年度の海外生産比率の変化をみると、化学工業は11.7ポイント上昇(経済産業省「海外事業活動基本調査:7.7%→19.4%」)しており、既に海外への生産拠点の移行が進んでいます。以上を踏まえると、両県とも産業構造転換への早急な取組が求められています。

**図表3 名目総生産の産業別比率**



**図表4 製造業出荷額の業種別比率**

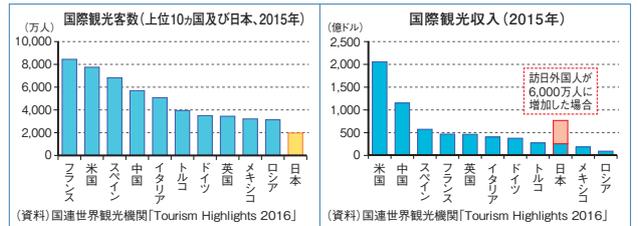


### 3. インバウンドの現状と期待

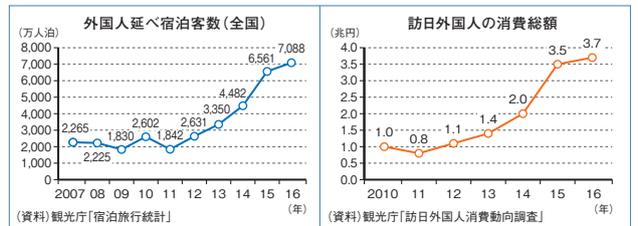
産業構造の転換を積極的に行う重要な施策の一つとして、インバウンドへの取組の将来性について記述します。図表5(左)は、2015年の国際観光客数を表していますが、日本は1,974万人で、第1位のフランス(8,445万人)の四分の一の水準であることから、増加する余地は極めて高いと言えます。2015年の国際観光収入を図表5(右)に示しましたが、2030年の政府目標である6,000万人の訪日外国人旅行者数が達成されると、同収入は759億ドルと推計(政府目標15兆円)され、図表4の非鉄金属製造業に相当する市場規模となります。なお、訪日外国人の延べ宿泊客数・消費総額(図表6)は順調に推移しています。また、

愛知県・三重県の延べ宿泊客数(図表7)も、2016年は伊勢志摩サミットの影響もあって減少に転じたものの、2011年以降順調に推移していると言えます。

**図表5 国際観光客数及び国際観光収入**



**図表6 訪日外国人の宿泊客数・消費総額推移**



**図表7 外国人の宿泊客数(愛知県・三重県)**



### 4. 地域金融機関の役割

地域金融機関が、「地域連携事業化コーディネーター\*1」としての役割を果たす必要性がますます高まっている点は、MIE TOPICS No.76(2014.4)のレポートで指摘しました。地域を面として捉え、様々な業種や人のネットワークを有する地域金融機関の活躍の場は無限に広がっています。地方創生の名のもと、様々な取組を行うことで、地域の独自性を活かした新たな魅力は発掘できます。地域金融機関の役職員は、地域をプロデュースする気概をもって、取り組まなければなりません。

\*1 地域社会・地域経済の発展を目的に、様々な業種業態の団体や地域資源などの要素の統合・調整により新たな価値を導き出す者

### 5. 三重県における地域資源の再評価と価値創造

三重県は、南北に細長い県土で、西側には鈴鹿

山脈・布引山地・紀伊山地・伊賀盆地が、東側は伊勢湾に沿って伊勢平野が、南側は熊野灘の屈曲なリアス式海岸が発達しています。また、歴史的にも、1871年の第2次廃藩置県までは、紀伊・伊賀・伊勢・志摩の4つの国で形成されていたことから、地理的・歴史的な多様性に富んでいます。

インバウンドに向けたコンテンツ作りは、当地を丁寧に観察し地域資源として再評価すること並びに複数の地域資源の再結合による新たな価値を創造することで可能となります。ターゲットは、大阪・京都から東京までのいわゆるゴールデンルートを経験したりリピート外国人旅行者とします。

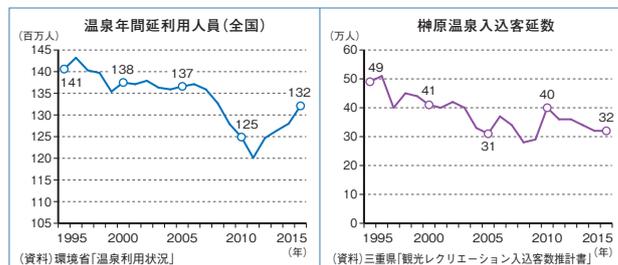
観光庁が平成28年に実施した「訪日外国人消費動向調査」によると、今回の滞在中にしたことベスト3は「日本食を食べる」「ショッピング」「繁華街の街歩き」の順ですが、次回訪日時したいことでは、「自然・景勝地観光」「温泉入浴」と答えた外国人の割合が多くなっています。また、近畿農政局が平成27年に近畿管内の留学生・在領事関係者を対象に実施したアンケートでは、今後訪問したい観光先として、自然体験・農業体験・伝統文化体験ができるところを一番に挙げています。従って、これらのアンケート結果も踏まえつつ、日本文化や日本人の生活に触れる長期滞在型コンテンツ開発に取り組むのが妥当と言えます。

## 6. 事例紹介

最近手がけた有限会社湯元榊原館と学校法人鈴鹿医療科学大学・日本薬膳学会とのコンテンツ開発事例を紹介します。

三重県で最も有名な温泉地の一つとして、榊原温泉があります。榊原温泉は、平安時代に清少納言が枕草子の第117段で「湯は七栗の湯 有馬の湯 玉造の湯」と讃えた名湯で、奈良時代から伊勢神宮にお参りする都人が身を清めた湯ごり(禊)の地として、また、江戸時代には湯治場として栄えました。健康志向の高まりやリゾートが注目されるなか、地域資源として魅力的な温泉ですが、現実には厳しく関係者の努力にもかかわらず、この20年間の温泉利用客は減少しています(図表8)。

図表8 全国と榊原温泉の年間延利用人数推移



三重銀行グループは、地方創生による地域活性化を目指す地域金融機関としてこの状況を打破するべく、湯元榊原館の経営陣と相談しながら、SWOT分析やターゲットとする顧客並びにサービス内容についての検討を重ねました。その結果、泉質と歴史に強みはあるものの、温泉街の散策には規模的な弱みがあり、現代版湯治の再現をキーワードに、目的的な要素を深めつつ新サービスを開発することで、方向性の一致をみました。メインテーマは、①女性の社会進出に伴うストレスを解き放ち心身ともに再生する場所の提供、②日本をゆっくり味わいたいリピート訪日外国人が日本の温泉文化に触れる場所の提供に設定しました。つまり、ターゲットは、働く女性とリピート外国人旅行者、サービスのキーワードは、健康・美容・再生・温泉文化の体験です。

本構想を具体化するため、三重銀行グループが有するネットワークから様々な選択肢を思案した結果、ベストミックスは学校法人鈴鹿医療科学大学において他にないと結論付けました。なぜなら、学校法人鈴鹿医療科学大学は、東海三県で唯一鍼灸学科と付属機関として東洋医学研究所・鍼灸治療センターを有する特色のある三重県下有数の学校法人だからです。東洋医学の見地から基礎研究・臨床研究・治療を行うとともに、薬食同源の観点から薬膳開発を実践し、今後社会問題化する超高齢化社会への有力な対策の一つである健康寿命の延伸に取り組んでいます。さらに、その動きを加速させるため、鍼灸学科と医療栄養の教員が中心になって「日本薬膳学会」を設立し、普及に向けて鈴鹿医療科学大学が賛助しています。

早速、学校法人鈴鹿医療科学大学の高木理事長に相談に上がったところ、ご快諾をいただき、プ

ランは現実味を帯びてきました。有限会社湯元榊原館・学校法人鈴鹿医療科学大学・日本薬膳学会・株式会社三重銀行・株式会社三重銀総研それぞれの機関決定を経て、関係者が幾度と無く打合せを重ねることでプランは出来上がりました。オープニングセレモニー(2017.3.2開催)は、日本薬膳学会代表理事で鈴鹿医療科学大学教授の高木久代先生による講演、日本薬膳学会監修による薬膳料理の昼食、鍼灸治療と温泉体験で、約100名の参加者があり盛大に終了することができました。

図表9 オープニングセレモニー



図表10 鍼灸・薬膳宿泊プラン



3月16日からは、「鍼灸・薬膳宿泊プラン」として木曜日限定で本格スタートしていますが、チェックインタイムを早め、長時間の滞在を可能にしました。ウエルカムティーに始まり、温泉入浴、特別室で鈴鹿医療科学大学の教員による鍼灸施術とお客様の体調に合わせた薬膳茶のサービス

著者：伊藤 公昭 博士(学術)

役職：株式会社三重銀総研 専務取締役、 兼職：三重銀行 地方創生推進室長、

三重大学大学院 地域イノベーション学研究所 客員教授、地域イノベーション学会 理事

ス、さらには日本薬膳学会監修による美味しい和風薬膳料理と温泉地の夜をゆっくり過ごします。

早急に取り組むべきことは、本プランのプロモーションと医療ツーリズムを志向したコンテンツ開発による長期滞在型プランへの移行です。まず、プロモーションは、2017年5月24日に三重銀行グループと株式会社JTB中部とで締結した包括協定に基づき、同社のノウハウを得て国内外に実施していきます。また、訪日外国人受入れに積極的な医療機関と新連携を締結し、同旅客向けに人間ドック・PET検診を実現します。

図表11 JTB中部との包括協定



## 7. 今後の展開

今後の展開として、株式会社JTB中部との連携を活かし、三重県・愛知県における地域資源原石<sup>※2</sup>の磨き上げと旅行商品へのプラン化、インバウンド向けプロモーションの充実を図ります。

※2 地域資源としての価値を有するにもかかわらず、その価値に気づいていない宝

当面は本プランを核とし、榊原温泉周辺住民の了解と協力を得る形での遊歩道の整備や地元農家による食材の栽培・加工(含む薬膳食材)でプラン深化を図るとともに、他地域での新たなコンテンツ組成と新結合を実現します。さらに、エリアを他府県も含めた広域に捉え直し、関空・セントレアから、医療をコンセプトに長期間滞在できるオプションコンテンツ組成に向けて、ゴルフ、農業・伝統文化体験などの開発を地元自治体や出版社・航空会社・イベント会社などで行う予定です。我々の使命を、ターゲット顧客が何度も訪問したくなる魅力ある地域の創造と心得て、邁進します。